

再処理・リサイクル部会
核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究ワーキンググループ (SAWG)

第 2 回 SAWG-II 会合 議事録 (要約版)

1. 日時 2015 年 6 月 25 日 (木) 16 時 00 分～18 時 25 分
2. 場所 秋葉原ダイビル 18 階 第 3 会議室
3. 出席者 (敬称略, 順不同)
主 査: 池田泰久 (東工大)
副主査: 村松 健 (東京都市大)
幹 事: 浅沼徳子 (東海大), 阿部 仁 (JAEA), 深澤哲生 (日立 GE), 眞部文聡 (MHI),
吉田一雄 (JAEA)
委 員: 青柳春樹 (JNFL), 池田 昭 (東芝), 澤田佳代 (名大), 鷹尾康一郎 (東工大),
塚田毅志 (電中研), 中島 健 (京大), 中村芳信 (JAEA), 野上雅伸 (近畿大),
林 昭宏 (電事連), 平野光将 (電中研), 藤井俊行 (京大), 藤田玲子 (JST),
森岡信男 (MMC), 山根祐一 (JAEA),
オブザーバ: 天野祐希 (JAEA), 石尾貴宏 (JNFL), 小倉逸也 (東芝), 加藤徹也 (電中研),
小玉貴司 (JNFL), 武田和仁 (東電), 鳥居伸彦 (MHI), 藤原大輔 (TEPSYS),
松岡伸吾 (JNFL), 森田泰治 (JAEA), 吉田尚生 (JAEA)

4. 配付資料

- SAWG-II 2-0 議事次第
- SAWG-II 2-1 第 1 回 SAWG-II 議事録
- SAWG-II 2-3 蒸発乾固事故の検討スケジュール案
- SAWG-II 2-4 蒸発乾固事故の位置づけ (各国での取扱いを含む)
- SAWG-II 2-5 内的及び外的事象としての沸騰事故 (地震の重要性)
- SAWG-II 2-6 五因子法の概要と蒸発乾固事故
- SAWG-II 2-7 実廃液を用いた蒸発乾固事故 — CEA 実験の概要 —

※SAWG-II 2-2 は欠番

5. 議事概要及び決定事項

(1) 人事案件

池田主査より, 今回会合より小倉逸也氏 (東芝) と武田和仁氏 (東電) を新規オブザーバとして, また, 次回会合より現オブザーバの松岡伸吾氏 (JNFL) を幹事, 小玉貴司氏 (JNFL) を委員として迎え入れたいとの提案があり, 承認された。

(2) 前回議事録 (案) の確認 (資料 SAWG-II 2-1)

前回議事録 (案) について承認された。

(3) 原子力安全分科会とのシンポジウムの開催について

池田主査より、原子力安全分科会と協力し、SAWGの検討内容に関するシンポジウムの開催を検討している旨の説明があった。

(4) 検討スケジュール案について（資料 SAWG-II 2-3）

吉田幹事より、9月までの検討スケジュール案について提案がなされ、了承された。今回を含め5回で、蒸発乾固事故、有機溶媒火災及び水素爆発について報告する予定。

(5) 蒸発乾固事故の位置づけについて（資料 SAWG-II 2-4）

小玉オブザーバより説明がなされ、情報を共有した。事故の頻度と影響について、今後更に精度を高めた評価の必要性が再確認された。

(6) 内的及び外的事象としての沸騰事故（地震の重要性）について（資料 SAWG-II 2-5）

眞部幹事より説明がなされ、情報を共有した。再処理施設の例では、リスク分布は総じて、地震リスク>内的事象リスクであり、耐力を超える地震動に対するリスクの評価が重要であることが示された。

(7) 五因子法の概要と蒸発乾固事故（資料 SAWG-II 2-6）及び実廃液を用いた蒸発乾固実験～CEA 実験の概要～（資料 SAWG-II 2-7）

吉田幹事より説明がなされ、情報を共有した。高レベル廃液貯槽の冷却機能喪失に伴う廃液沸騰による放射性物質放出は、現在の知見では五因子法による評価に限界があると思われるため、この精度を高めるためのデータ蓄積や解析が必要との意見が示された。

(8) サブワーキンググループの立ち上げについて

池田主査より、各事象について委員を振り分けサブワーキンググループとして活動していきたいとの提案があった。各委員が必ず一つのグループに所属し、議論を進めていく方針。吉田幹事にとりまとめをお願いし、後日希望調査を行うこととなった。

(9) 原子力安全分科会へのオブザーバ参加について

池田主査より、次回の原子力安全分科会のオブザーバに SAWG メンバーから参加することで申し込む提案があり了承された。

(10) 次回日程

日時：2015年7月8日(水) 9:30～12:30

場所：決定次第連絡する。

以上